

奏功事例紹介

【奏功事例①】

マンションの居住者（70代）が、夕食の残りを温めようとガスコンロに鍋をかけ点火し、そのまま家を施錠し外出。鍋の空焚きにより煙が発生し、付近住民が住宅用火災警報器（煙式）の警報音に気付き、煙を発見し通報したもの。早期の発見、通報により火災には至らなかった。



【奏功事例②】

夕食のコロッケを揚げようと、鍋に油を入れガスコンロにかけ点火。温度が上がるまでと思い、浴室の掃除をしているうちに鍋をかけているのを忘れしまった。しばらくして、階段室の住宅用火災警報器が警報音とともに音声で「家事です」と発報したので、あわてて台所に行くと部屋中に煙が充満し、鍋から発火していたので、濡れタオルをかぶせて初期消火した。台所の床と柱の一部及びカーテンを焼損したが、大事には至らなかった。



【奏功事例③】

事務所併用住宅で、30代男性が煙草の吸い殻の処理が不十分な状態で寝てしまった。その後、しばらくして室内に煙が充満し、住宅用火災警報器（煙式）が鳴動した。警報音に気付いた男性は、窓を開け換気し、避難した。建物は一部焼損し、男性は軽度の負傷をおったが、大事には至らなかった。

